

アサヒビール

環境教育プログラム「日本の環境を守る若武者育成塾」が平成26年度「青少年の体験活動推進企業表彰」の文部科学大臣賞受賞

アサヒビールは文部科学省が主催する「平成26年度『青少年の体験活動推進企業表彰』」で次世代を担う高校生を対象とした環境教育プログラム「日本の環境を守る若武者育成塾」が文部科学大臣賞を受賞した。

2006年に若武者育成塾第1期を開催

アサヒビールの環境教育プログラム「日本の環境を守る若武者育成塾」は環境問題に高い関心を持ち、環境保全のために自らも行動したいと考える次世代を担う高校生を対象に、環境活動について学び自ら実践する場を提供するプログラムで、論文審査で選ばれた高校生が夏合宿に参加し、五感を



2014年若武者育成塾合宿最終日の記念撮影

や工場での環境に対する取り組みの見学など環境の現場に携わっている人から環境活動を学び、環境問題を肌で感じる機会を得て各自の地元に戻り、高校生自らの考えた環境保全活動を実践することで社会の課題と向き合っ解決する力を身に着けた志の高い逞しい「若武者」を育成しようとするもの。持続可能な社会づくり支援の一環として2006年に第1期を開催、この後、毎年企画・開催(昨2014年が第9期)にしており、その活動が認められ、環境省が発行する平成26年度「環境日書」では「+ESDプロジェクト」に登録されている活動の1つとして紹介されている。

また、同社では同プログラムの対象を高校生にしているが、これは①高校生は大学進学や企業への就職の一手前前の時期であり、社会のさまざまな情報を自ら咀嚼・判断し、人生の方針を決め始める多感な時期、②社会では環境問題をはじめ、さまざまな社会問題が頻発しているが、IT技術の向上によって情報収集力は格段に上がり、高校生の問題意識はかなり高まっている、③環境教育推進法の施行や総合学習の時間が創設されて以来、事業者はさまざまな環境教育を推進しているが、小学生向けの出張授業や大学生向けなどは多数行われているものの高校生向けは少ないなどの理由から、若武者育成塾の開催により高校生に「環境問題」というコンテンツをより正確に提供し、今後の人生をより豊かに充実したものであるよう支援をしていきたいという。なお、これまでの若武者育成塾卒業生は221名を数えており、過去5期の参加高校、参加人数は次のようになっている。

【2014年(第9期)】／7



2014年若武者育成塾合宿

- 校・21名 村山産業学園高等学校 (山形県)、名城大学附属高等学校 (愛知県)、加茂農林高等学校 (岐阜県)、岐阜農林高等学校 (同)、園芸高等学校 (大阪府)、丹原高等学校 (愛媛県)、北松農業高等学校 (長崎県)
- 【2013年(第8期)】／7
- 校・17名 旭川大学高等学校 (北海道)、藤女子高等学校 (同)、青森南高等学校 (青森県)、八戸工業大学第二高等学校 (同)、大曲農業高等学校 (秋田県)、仙台三枝高等学校 (宮城県)、中央農業



2014年若武者育成塾合宿(瀬戸内海・豊島での講習)

という継続事業であるという。アサヒビールの社

環境部では、「これまで9年間やってきている」とい

る点」。「体験の学びを実践して活かす機会を設定している点」。「参加者全員がリーダーシップを発揮できる機会が得られるように工夫している点」などが評価され、今回の文部科学大臣賞受賞になったと考えているという。



2014年若武者育成塾合宿(瀬戸内海のアマモ場)

高等学校(神奈川県) 【2012年(第7期) / 7校・25名】油木高等学校(広島県)、西条農業高等学校(同)、木津高等学校(京都府)、山陽女子高等学校(岡山県)、福岡大学附属大濠高等学校(福岡県)、唐津南高等学校(佐賀県)、島原農業高等学校(長崎県) 【2011年(第6期) / 7校・28名】八戸工業大学第二高等学校(青森県)、盛岡農業高等学校(岩手県)、米沢工業高等学校(山形県)、修

明高等学校(福島県)、栃木農業高等学校(栃木県)、早稲田大学本庄高等学院(埼玉県)、筑波大学附属坂戸高等学校(同) 【2010年(第5期) / 7校・26名】園芸高等学校(大阪府)、農業高等学校(兵庫県)、三木北高等学校(同)、飛騨高山高等学校(岐阜県)、日高高等学校(和歌山県)、富岳館高等学校(静岡県)、桂高等学校(京都府)

伐中心の施策を実施しており、間伐材を市場に出荷している。また、同森林は2001年にFSC森林認証を日本で3番目に取得し、持続可能でありよい森林経営の実現に向けた取組みを推進しており、2006年からは未来を担う地域の小学生を対象に、森林の役割や環境保全の大切さを同森林(アサヒの森)での体験から学んでもらう機会を提供する森林環境教育「アサヒ森の子塾」を開催している。さらに2009年8月からは林野庁広島北部森林管理署と共同で広島県庄原市比和小学校の生徒を対象に森林環境教育「森と水の学習会」を実施し、2011年に環境省によるオフセット・クレジット(J-V E R)も取得している。

0年3月に酒類業界では初となる「生物多様性宣言」を策定、豊かな自然の恵みを守り、育み、次世代へ伝える活動を展開するとともに、2009年春から開始した主力商品「スーパードライ」の売上げの一部を全国47都道府県ごとに設定した環境保全などの活動に役立ててもらおう「うまい!を明日へ!」プロジェクトでは各地域で生物多様性保全につながる活動を支援、自然の恵みの大切さの普及に努めている。

「アサヒビールの環境活動の起源は1941年にアサヒビールの前身である大日本麦酒が当時、ビール瓶の王冠の裏地に使用されていたコルクの代用品としてアベマキの樹皮を確保するために広島県の山林を購入したことに始まっている。このアベマキの樹皮は結果的には王冠に使用しなかったが、同社では1960年代からヒノキ・スギの本格的な植林に着手。今日に至るまで社員の手によって森を育てており、現在は森林経営計画に基づき、40〜50年生のヒノキ・スギを対象とした利用間

環境活動の起源はアベマキ樹皮確保への山林購入